

完成披露試写会

映画「裁判員～選ばれ、そして見えてきたもの～」



「平成21年初冬、東日本空調システム株式会社の営業マン村瀬智昭（45歳）のもとに1通の手紙が届く。

それは、裁判員候補者名簿に自分の名前が載ったとお知らせだった。

裁判員候補者になる可能性は低いと思っていた村瀬だが、平成22年3月、村瀬のもとに裁判員選任手続期日の「お知らせ」が送られてくる。

村瀬は、仕事の都合もあり、当初は参加に消極的であったが、徐々に参加してもよいと思うようになっていく・・・」

平成19年3月20日（火）、最高裁判所講堂で、映画「裁判員～選ばれ、そして見えてきたもの～」の披露試写会を行いました。会場には、主演の村上弘明さん、出演してくださった山口果林さん、前田愛さん、泉政行さん、浜田晃さん、飯田基祐さんと梶間俊一監督が駆けつけてくださいました。

試写会では、島田最高裁長官や出演者の方々から挨拶をいただきましたので一部紹介します。

島田最高裁長官 裁判員にどのようにして選ばれるのかのイメージを、初めて映像化したのがこの映画です。裁判員制度が始まりますと、皆さんが裁判員として参加していただくことにより、裁判所に対する信頼の念やご理解が今まで以上にますます深まることが期待されています。また、皆さんが裁判員の経験をされて、何か今まで見えていなかったものが見えてくるのではないかと思います。この映画のタイトルもそのようなことを意味します。皆さんも、この映画をご覧いただいて、何が見えてくるのかお一人お一人よく考えてみていただきたいと思います。



村上弘明さん この作品では、色々役について考えることはせずに、役としてではなく、自分としてどう思うか、



自分だったらどう行動するかということを考えて演じました。そういった意味で、自分自身のキャリアの中で、最も自分が投影されている役ではないかなと思っています。裁判員の経験を通して、自分、家族といったものを見つめ直すいい機会だと思います。是非じっくりご覧ください。